

高知県橋梁会 平成 22 年度現場見学会レポート

(株)第一コンサルタンツ 小松 由和

平成 22 年 6 月 18 日に高知県橋梁会の現場見学に初めて参加させて頂きました。見学した橋梁は愛媛県松山市石手にある岩堰橋と徳島県三好市池田にある三好橋です。

今回の現場見学会には約 20 名の方が参加されていました。私は橋梁に関する知識がほとんど無かったのですが、参加されている方々は橋梁に関するプロでしたので移動中の講座や現地での説明はとてもわかりやすく、大変勉強になりました。



最初に見学した岩堰橋です。緑に囲まれた場所にあり、どこか懐かしく感じられる橋。大正 13 年に作られ元々は木造の吊り橋だったのですが、昭和 37 年に鋼製に改修されました。ハンガーロ-プは曲がっており、とても荷重には耐えられないと思いました。



手摺りが主塔から抜けそうになっており非常に危険だと思いました。最初はもう少し下の方にあったらしいのですが、

徐々に上に移動し抜けそうになっています。主塔はそれほど大きな破損は見られませんでした。



移動中の車内では、さまざまな講演がありました。吊り橋の構造、三好橋の修復の概要、そして私たちが発表した橋梁形式と構造的特徴。どれもわかりやすくまとめられており、理解しやすかったです。

また、右城会長による「静定・不静定の判定と不静定次数の見分け方」は、特殊な計算式などは一切使用せず、簡単に判定できることに大変驚きました。これを解けることは大学院卒レベルだそうです。



午後，三好橋を見学しました。この橋は昭和 2 年に架設された吊り橋で，当時は「東洋一」の吊り橋として大変有名だったそうです。

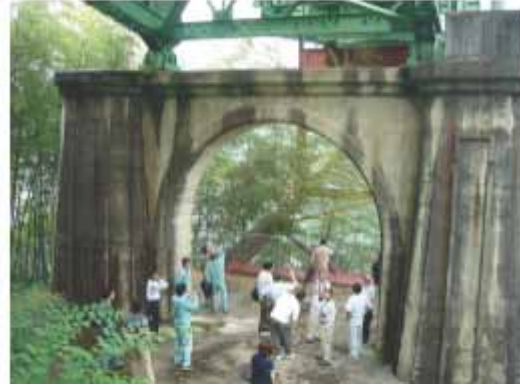
現代のような建設機械も無かった時代にこのような長大な橋を造ることはとても難しかったと思います。



三好橋を支えていた主塔は無くなり，吊り橋からア - チ橋へと姿を変えました。現在も使われているほど丈夫な構造となりました。



これは当時の主ケーブルを支えていたアンカーです。主索が腐食したこと，交通量の増加による荷重の増大などのため吊り橋から現在のア - チ橋へと改修されました。改修方法はいくつか考えられましたが，最も実現可能な案のア - チ橋に改修することにしたそうです。



三好橋を完成当時から支えている橋台です。長年の風雨によって所々にひび割れや剥離がおきていましたが，今も三好橋をしっかりと支えていました。橋梁は上部に注目されることが多いと思いますが，私はこの縁の下の力持ち，橋台にとっても興味を持ちました。